高エネルギー現象 ~ 初期宇宙の研究における LHC・ATLAS実験



1

- 直接加速器で粒子を衝突: High Energy Frontier • ΔE * Δt ~h
 - 短時間の事象(稀事象)に、高いエネルギースケール の物理の寄与を探る。
 - 当然標準理論からの寄与は、強く抑制されていない と、見えない → 見つけにくいものをがんばって探 すことになる。
 - Rare decay: 大強度ビーム: Intensity Frontier 南條

•宇宙初期の様子を再現できる(10⁻¹²~10⁻¹⁴sec)

•E=mc²:m大 → <u>重い粒子</u>をつくれる

•E=hv=h · (c/λ):小さな構造を探れる:10⁻¹⁸m



加速器のhistory・発見した粒子



Recent Physics results from

LHC experiments

Large Hadron Collider

- 27km = 18km(bent) + 9km(straight)
- proton-proton collider @ 14TeV

B~8.3[T]

(@ 8TeV in 2012)

 $7 \rightarrow 8 \rightarrow 13 \rightarrow 14 \text{TeV}$



LHC Run-1 : 2010 - 2012



LHC Run-1 : 2010 - 2012



6

LHC : 2010 → 2021 → 2030



Higgs の spin-parity:ZZ



Higgs-Fermion, Higgs-Gauge 結合定数の(精密)測定



8

各 Higgs Productionプロセスにわけて…



階層性問題



- Higgs粒子は発見された
- 階層性問題
 - 標準理論を高いエネルギースケールに適用しようと すると、Higgs粒子の質量は2次発散し、非常に大 きくなる。
 - 高いエネルギースケールからスタートすると、ここ で与えられる巨大な質量が、異様に正確にあたえら れないと、現在のHiggs質量が導けない。

- 不自然 \rightarrow **1TeV**くらいで**New Physics**があったらいいな。。。なかなかみつからない。

¹¹ Strongrop Sola Yorgarch: どこまで手が届く?



Large Extra Dimension



LHC:7->8->13->14TeV と増加していく時は、new particle search に、とてもよい季節



時空構造・入れ物へのアプローチ

13

LHC : 2010 → 2021 → 2030



event pileup

10¹¹

protons

Φ~16µm

L~10cm

1バンチ交差で 50 interactions (max. in 2012)

14



実験サイドの努力 v.s. high-<u>



実験サイドの努力 v.s. high-<u>



よいデータをとる・よい物理をだす



イベントの重なり ・ Jet エネルギーの測定精度を悪くする ・トリガーレートの Lⁿ (n>1) 上昇 ・...

いろいろの困難を引きおこす 解析・ハードウエア、進化させ続ける

3,000人のグループだと、だまって座っていて もデータは「出てきて」しまう。

が、

よいデータ・よい物理を引き出すための努力 自分の名刺がわりになるような仕事をひとつ やって、ドクター論文を仕上げて次の ステップへ行ってほしい

→2つの可能性

可能性1

JETのキャリブレーションとその物理

17

よい物理を出すために、その1-1: JET calibration

隅田



LHC energy上昇 -> 高いptまで calibration する

particle jet recoil

<mark>19</mark>

よい物理を出すために、その1-2: JET calibration





20

Correction よい物理を出すために、その1-3:JEI CallDration





これをきちんと測りたい。



* ミューオンを含んだ b-JET の反応の測定。



ご利益: JET calibration

・JETを使ってできる、直結した物理がある。 → よい calibration → D論の軸にすえる

・どんな物理をやってもJETとは縁がきれない ので、将来性もある だろう





可能性2

ミューオントリガーの

回路・検出器開発

40MHz → 400Hz どのイベントを記録するか? (捨てるか) 選択するのはトリガー

ハドロンコライダーの物理はトリガーで決まる



LVL1 µ-トリガースキーム



²⁵ µ Spectrometer - Phase0, 1 アップグレード





2012年の 0.7x10³⁴cm⁻²s⁻¹の実現方法



 $1.4^3 \ge 0.57(\epsilon) \ge 0.5(f) \ge 0.92(\beta^*) \sim 0.72$

28



「歴史」@CERN



モックアップから完成品まで そのすべてに 指紋と思考の跡が刻みこまれています

TGC : <u>Thin-Gap-Chamber</u>





$\mu-$ トリガー -> WW

 $\frac{mu20 \text{ (or } 2mu10 \text{)}}{W/Z \text{ (+jets)}, WW, WZ, ZZ, W\gamma, Z\gamma}$

33



もし "anomalous coupling" あれば、g, κ , λ の値が 1, 1, 0 ではなくなり、 観測 σ wwが σ smと異なる。 λ_z

```
0.1 fb<sup>-1</sup>
                                                          0.2
                                                                                                1.0 fb<sup>-1</sup>
10<sup>-2</sup>までしかいかない。W -> WZ (Iν,II) の
                                                                                                10.0 fb<sup>-1</sup>
                                                          0.1
方が sensitivity良い (10<sup>-3</sup>くらい行きたい)
                                                                                                30.0 fb<sup>-1</sup>
                                                           0
    2Lepton Opposite-Sign + MET
                                                         -0.1
    Higgs -> WW と同じトポロジー
                                                         -0.2
               よく研究しておく
                                                                                                   0.2
                                                                                        0.1
                                                                                             0.15
                                                                                   0.05
                                                                                                       \Delta \kappa z
```

LHC : 2010 -> 2021



